

令和4年度 さいたま市立道祖土小学校
第3回学校運営協議会 議事録

【日 時】令和5年2月16日（木） 13時20分～15時00分

【場 所】道祖土小学校 3階 高学年図書室

議事録】

○開会

○運営協議会委員長あいさつ

○校長より

- ・令和4年度学校自己評価システムシートおよび学校評価から、今年度の成果と課題について
- ・本日の熟議に関連する校長案の提示

○熟議「学校・家庭・地域で協働していけること」

熟議の視点として（校長より）

- ・不足しているヒト・コト・モノ・情報を補う視点で。
- ・学校や地域に見られる問題点や改善すべき事項等を修正・更新する視点で。
- ・新たな仕組みや取組等を設ける視点で。
- ・校長案も参考にして。

～何年もかけて出来上がっていくものである～

○各委員より

保育園

- ・この学校運営協議会を通して、この1年間でいろいろと学ぶことができた。
- ・立場の違う人との関わりの中で、子どもたちへどのように指導していくべきか、また、どんな見通しで子どもたちへ働きかけていくか、とても勉強になった。

チャレンジスクール

- ・どんな子どもを育てていくのかを考える1年間だった。「不易と本物を見極める力」をつけてほしいと感じている。多面的な視野をもつとともに楽をしないで目的を達成してほしいと願っている。
- ・総務省出前授業では教職員に色々と協力をいただき感謝している。6年生の子どもたちの反応はとてもよかった。ぜひ来年度もなるべく早い時期に実施をしたいと考えている。
- ・チャレンジスクール活動中では子どもたち同士の関わりで難しい場面があった。友達が、相手に対して「字が雑」といわれ泣いてしまった子がいる。いじめかどうかの判断ができず、近くで見守りを続けている。

育成会・兼交通指導員

- ・この1年間、役に立てるか不安であった。
- ・毎朝、登校中に交通整理をしているが、年度の始まりは子どもたちのあいさつが少なかった。時間とともにあいさつが増えてきた。交通整理の時間ではない昼間の時間にも子どもから「こんにちは」とあいさつされた。子どもとともに家庭・親自身のあいさつする姿勢が大切だと感じている。

公民館

- ・公民館の前で5年間、毎朝子どもたちが登校する時間にあいさつをしている。コロナ禍になってから子どもたちのあいさつは元気がないと感じている。子どもたちの元気をつける必要性を強く感じている。
- ・現代の社会は、情報量が多すぎる。だからこそ子どもたちにはその情報を取捨選択する力をはぐくむことが大切である。周りの大人が子どもたちに確実に教えていくことが必要である。

会長（育成会）

- ・2月のこの時期は、中学生は受験期間中で生徒たちはピリピリしている。今日道祖土小へ来校し、児童たちはいつもの明るく元気な様子でよかった。
- ・子どもの目線で子どもの自立を促す必要がある。5年生が実施した交通安全マップ作りは子どもたち自身の目を見て学区内の危険に気づくことができるよい取組だ。
- ・子どもの行事を大人が協力する姿があってもよい。挨拶運動をするなど、小中で連携をとってもよいのではないか。

中学校

- ・さいたま市としては「地域とともにある学校」を目指している。
- ・本校は道祖土小含めて3つの小学校から進学してくる。様々なことに配慮しなければならない。
- ・育てるという観点を地域・家庭・大人がもっていなければならない。
- ・SSNの方の活用をより充実していく必要がある。また、小学校であれば旗振りボランティアを十分に活用していく。
- ・人任せでなく当事者意識をもってみんなで子どもを育てていく。

PTA

- ・5年生「交通安全」の授業では、フィールドワークの様子をみていた。子どもたちはしっかりとやっていた。成果があったと思う。
- ・PTAからも通学路を実際に歩いてもらうように発信している。
- ・PTAで実施したアンケートの回答を大人も子どもも知れるように公開する必要がある。
- ・他校ではPTAでHPを開設するという話がでてきている。
- ・親の立場として、子育て中は子どもにすぐ答えを求めてしまう。
- ・大人の付き合い（近所同士など）が希薄だと感じる。地域の運動会をするのも一つの手立てかもしれない。

地域連携コーディネーター

- ・コミュニティ・スクール他校の様子を聞くと探りながら進んでいる感じがしていた。本校では、たくさんの意見が出て、よかった。
- ・交通安全の授業では、5年生児童とともに学区内をまわった。危険を見つけるためのヒントを少し与えるだけで多くの気づきがあった。素晴らしいと感じた。

○学校運営協議会による評価書の作成について（教頭より説明）

○いじめ防止について（教務主任より説明）

○閉会